

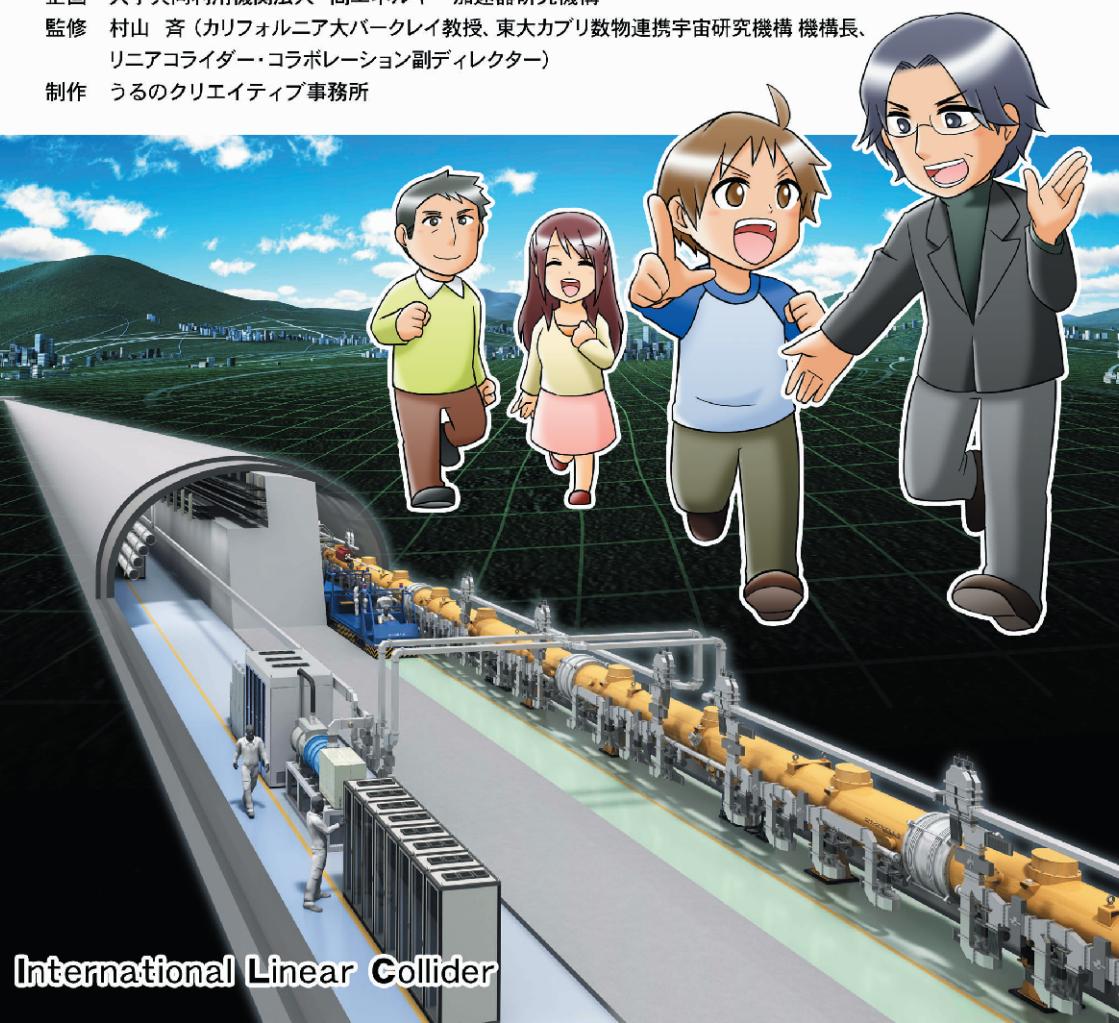
「世界でただ1つの未来の加速器」を楽しいマンガで紹介！

宇宙をつくる加速器 [国際リニアコライダー] がやってくる!?

企画 大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

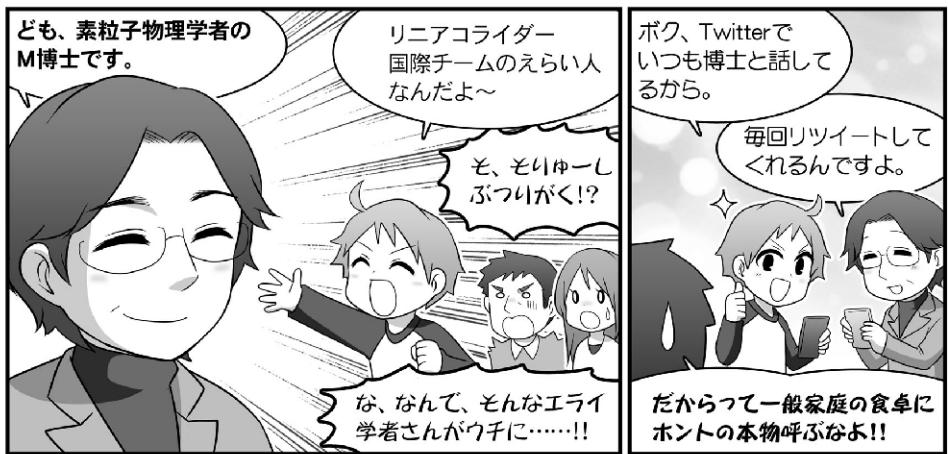
監修 村山 齊（カリフォルニア大バークレイ教授、東大カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長、
リニアコライダー・コラボレーション副ディレクター）

制作 うるのクリエイティブ事務所

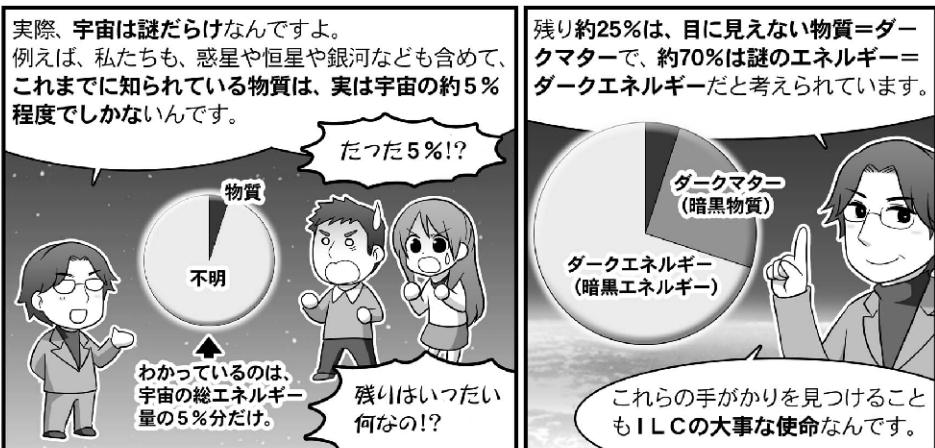


International Linear Collider













■円形加速器
(サイクロotron)



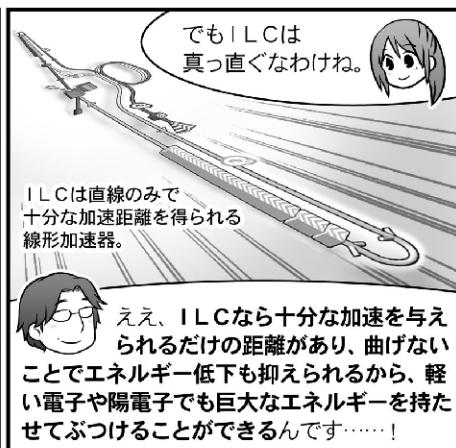
■円形加速器
(シンクロトロン)

だけど曲げると、せっかく粒子に与えたエネルギーが減ってしまうという問題があるんですよ。だから、できるだけ曲げたくないんです。



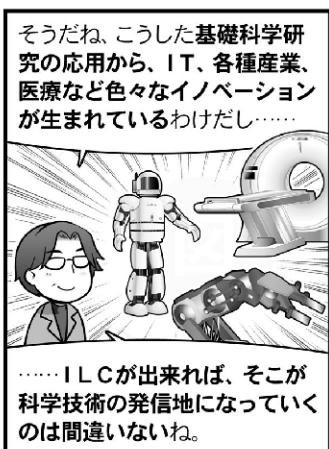
■スーパーKEKB加速器(茨城県つくば市)の内部。直線のように見えるが、直径約1km、円周約3kmの円形加速器。

なるほど、カーブを小さくするには大きくするしかないわけか。



ILCは直線のみで十分な加速距離を得られる線形加速器。

ええ、ILCなら十分な加速を与えられるだけの距離があり、曲げないことでエネルギー低下も抑えられるから、軽い電子や陽電子でも巨大なエネルギーを持たせてぶつけることができるんです……！



ILCはサイズは特大ですが、施設としては他の加速器と同じなんです。日本には大小1400台以上の加速器があるんですが、どれも安全に運転されています。

それに、ILCは岩盤の固い場所の、しかも地下100メートルに作られる計画なんです。そのため、揺れによる影響もかなり小さくなると考えられています。

地震が起きたら、すぐに運転もストップしますしね。

加速器の実験では、確かに電磁波や放射線なども出ますが、運転がストップすると、放射線の発生もすぐに停止します。

それに、電気の供給も停止するように設計されているので、火災等のリスクも低いと考えられています。

じゃ電気は？
それだけの施設なら電気もたくさん使うんでしょう？

そうですね。ILCの運転に必要な電力は12万キロワットと見積もられていて、これは東京の六本木ヒルズの発電能力の3倍くらいに相当します。



でも今の電力供給で、十分間に合うと確認されていますし、通常電力消費が大きい時期には稼働を停止するから、心配はないですよ。

電気は停電にならないように、かなり多めに作られていますが、溜めておくことは今のところできないため、必ず余剰電力が生まれています。

このためILCを稼働させても地域の電力が不足することはありません。

新しい発電所も作らなくていいわけだな。

それで……
実際に日本にできそ
なんですか？

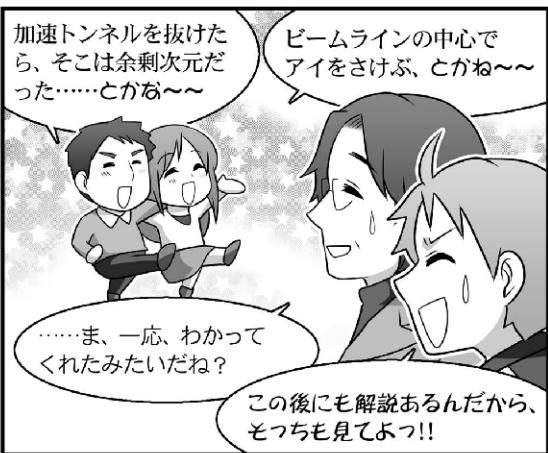


……はい！

もちろん候補地は日本だけじゃありませんが、元々日本は、素粒子物理学と加速器技術では世界でも有数の国ですから、ILC建設の候補地として大きな期待が寄せられているのです。

そんだけしっかりして
なら大丈夫そうだな！

でも加速器が壊れたり
したら、何か危険なこと
があるんじゃない……？



宇宙を
つくる!?

マジで!?



ILC

全長20km! 世界最高エネルギー!
International Linear Collider

国際リニアコライダー のしくみ



これが世界中の力を結集して
作られる加速器「国際リニア
コライダー」です!

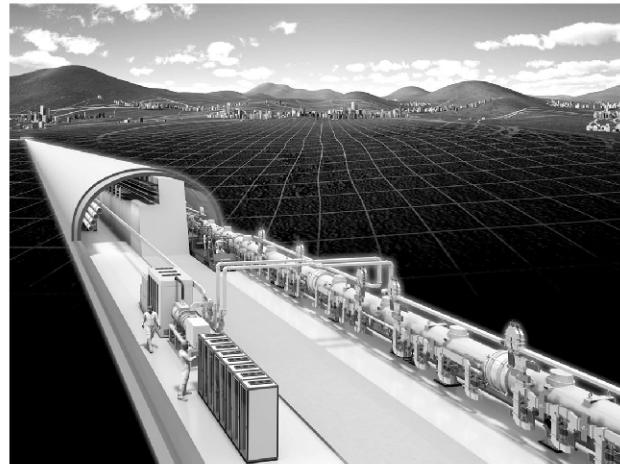


陽電子の超伝導線形加速器
淡いグレーのラインが陽電子を加速する超伝導線形加速トンネル。

ILCが創る未来

ILCが日本にできれば、世界中の研究者、学生が日本に集まることになります。

現代社会を支える各種産業、医療、ITなどの技術の多くが素粒子物理学の研究から生まれています。ILCは全世界的な「知の拠点」です。日本にILCができるということは、世界の技術、文化、教育の発信地となることであり、雇用や経済の面でも大きな力となっていくでしょう。



電子の超伝導線形加速器

濃いグレーのラインが電子を加速する超伝導線形加速トンネル。



測定器

加速器で光速に近いスピードに加速された電子と陽電子（電子の反物質）は、衝突点の中心でぶつかり、エネルギーに転換された後、なんらかの素粒子が生まれます。

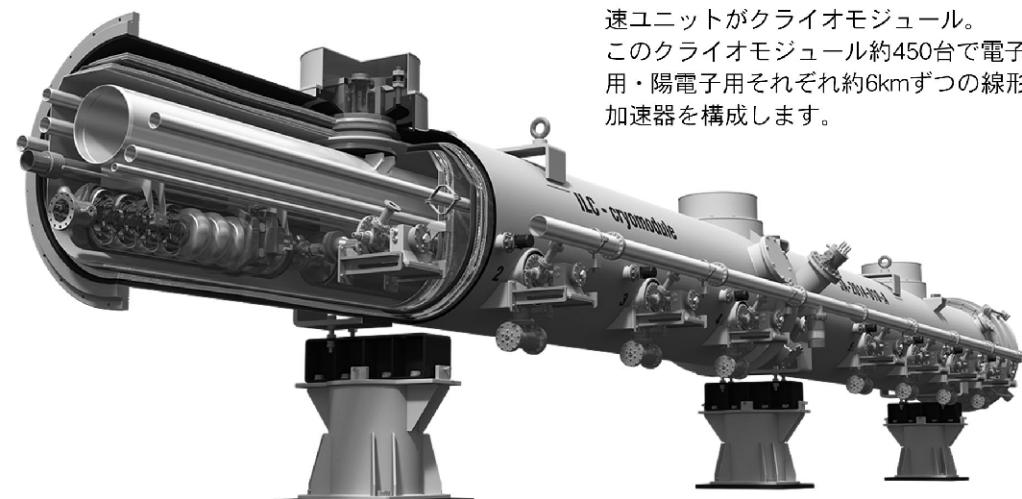
この衝突点にあるのが測定器で、衝突の瞬間を詳細に測定します。ILCでは、検出方法が違う2種類の測定器が設置されています。

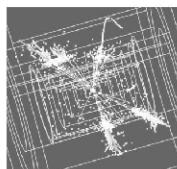


クライオモジュール

上記の超伝導加速空洞を組み込んだ加速ユニットがクライオモジュール。

このクライオモジュール約450台で電子用・陽電子用それぞれ約6kmずつの線形加速器を構成します。





ILC用語集

● 衝突型加速器

加速器は、電磁波などを使って粒子にエネルギーを加え、粒子を加速する装置のこと。衝突型加速器は、加速した粒子同士をぶつけるタイプの加速器で、衝突した粒子がつくり出すエネルギーのかたまりから噴出する様々な粒子を観測する。加速器で加速された粒子が速ければ速いほど、より大きなエネルギーを作り出すことができ、より珍しい粒子が生成される。

ILCでは、電子と陽電子をそれぞれ極限速度である光速近くまで加速して、宇宙初期に迫る超高エネルギーの世界に到達する。

● 超伝導加速

ある種の物質を極低温に冷やすと、電気抵抗がゼロになる「超伝導」状態が生じる。これをを利用して粒子を加速するのがILCで採用されている超伝導加速方式だ。

超伝導素材のレアメタル「ニオブ」でつくられた空洞にマイクロ波を送り込んで電場をつくり、電子や陽電子のビームを加速する。−264度C（ILCでは−271度Cで運転される）まで冷却されると空洞の内表面が超伝導状態になり電気抵抗がなくなる。電力損失や加熱が起こらないため、小さな電力・短い距離で大きなエネルギーを粒子に与えることができるのだ。

● ナノビームの生成・制御

ILCのビームは、非常に薄いリボンのような形をしている。その中に電子や陽電子が100億個も入っているのだ。ビームのサイズは、衝突点付近で高さ7.7ナノメートル（100万分の7.7mm）。水素原子わずか100個程度という小ささだ。こんなに小さくするのは、ビームの中の電子や陽電子の密度を高くして、衝突の頻度を上げるため。電子や陽電子は大きさが無いくらい小さいので、100億個といってもビームの中はスカスカなのだ。

ILCでは、このような極小ビームをつくる技術、さらにビームの衝突位置のズレをナノメートル精度に制御するという超絶技術が駆使される。

● 素粒子とヒッグス粒子

現在の科学では、素粒子が世界をつくるもっとも基本的なものと考えられている。これ以上割ることができない最小の物質のことだ。標準理論に登場する素粒子は17種類。物質をつくる粒子、力を伝える粒子、そして、質量を与えるヒッグス粒子だ。

ものに質量（重さ）があることは実はとても不思議なこと。私たちの重さは、私たちを形作る原子の中で素粒子クォークが光速で飛び回っている

「運動エネルギー」だ。ところが、私たちが日頃お世話になっている電子にも質量があることがわかっている。でも、電子は素粒子、つまり中身がない。その中に運動エネルギーを持っていないのだ。

ではなぜ電子は質量があるのか？そこで考え出されたのが、真空の中のヒッグスによって電子が邪魔をされて動きにくくなつた、と考える理論なのである。ヒッグスが本当に真空に存在するのであれば、大きなエネルギーを投入して、ヒッグス粒子をたたき出すことができる。

これがまさにILCが目指している実験だ。

ヒッグスは他の粒子とは全く異なる粒子だ。その特徴のひとつが「 спин」という性質を持たないこと。どうしてこんな粒子なのか？仲間はないのか？ヒッグスの秘密を探るためにには、超高性能の加速器ILCが必要なのだ。

● 標準理論を超える理論

現在、素粒子物理学で広く受け入れられている理論の枠組みが「標準理論」だ。この理論で予言されながら唯一見つかっていない最後のピースが「ヒッグス粒子」。2012年7月4日、このヒッグス粒子らしき新しい粒子を発見した、というビッグニュースが欧州合同原子核研究機関（CERN：セルン）から飛び込んできた。

「最後のピースが見つかったの？じゃあ、これで素粒子のことは全部わかつちゃったの？」

いや、そうではない。標準理論はとてもよく今の宇宙を表しているけれども、理論的には多くの矛盾を持っているのである。宇宙の物理現象をきちんと理解するためには、標準理論を超える新しい理論を創らなければならぬのだ。

「超対称性理論」「複合粒子理論」「余剰次元理論」など数々の有力候補理論がある。そのうちのどの理論が正しいのか？その謎を突き止める最適な実験道具として期待されているものがILCなのだ。

「世界でただ1つの未来の加速器」を楽しいマンガで紹介！

宇宙をつくる加速器 【国際リニアコライダー】 がやってくる!?

■発行日：2019年1月31日発行

■企画：大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

■監修：村山 斎（カリフォルニア大バークレイ教授、東大カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長、リニアコライダー・コラボレーション副ディレクター）

■制作：うるのクリエイティブ事務所 (<http://www.urutaku.com/>)
構成／原作／ディレクション／各種デザイン／編集：うるの拓也
キャラクターデザイン／作画：高橋まさえ
仕上げ／着色／各種アシスト：佐々木真知

(c) www.form-one.de

(c) Rey. Hori / KEK

(c) Takuya. Uruno / URUNO CREATIVE OFFICE

お問い合わせ先：リニアコライダー・コラボレーション広報担当
(高エネルギー加速器研究機構 ILC推進準備室内)

電話 029-879-6291 FAX 029-879-6246
E-mail communicators@linearcollider.org

「世界でただ1つの未来の加速器」を楽しいマンガで紹介！

宇宙をつくる加速器 【国際リニアコライダー】 がやってくる！？

